

こんな遺物が出土しました！



① 尖頭器(せんとうき)

槍先に付けられた石器で、縄文時代初めころ（約12,000年前）のものと思われます。サヌカイトという石を打ち割って細工をしたものです。

サヌカイトは大阪府と奈良県境にある二上山で取れたものと考えられます。

縄文時代の人が狩に使って落としていったものでしょうか。



②～⑤ 古墳時代前期の土師器(はじき)

② 小型丸底壺(こがたまるぞくつぼ)

口の直径が胴の直径よりも大きいのが特徴です。古墳では祭祀に用いられる壺ですが、竪穴住居の中から出土したことから、日常の食器として使用されていたかもしれません。

③ 高杯(たかつき)

食べ物を盛る器です。小型丸底壺と同様に竪穴住居から出土したことから、日常の食器として使用されていたと考えられます。

④⑤ 豊(かめ)

煮炊きに使われた土器で、外面に煤が付着しています。近畿地方の豊の形を真似した丸底のもの④と、東海地方に特有の台がつくもの（S字状口縁台付豊）⑤が出土しました。



③



④



⑤

中勢道路 調査ニュース No.56 2011. 8

Chusei News Letter No.52, Archaeological Properties Center of Mie Prefecture

三重県埋蔵文化財センター

〒515-0325 多気郡明和町竹川503

TEL 0596(52)1732 FAX 0596(52)7035

E-mail:maibun@pref.mie.jp

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/>

中勢道路埋蔵文化財発掘調査整理所

〒515-2316 松阪市嬉野川北町471

TEL 0598(42)7960 FAX 0598(42)7961

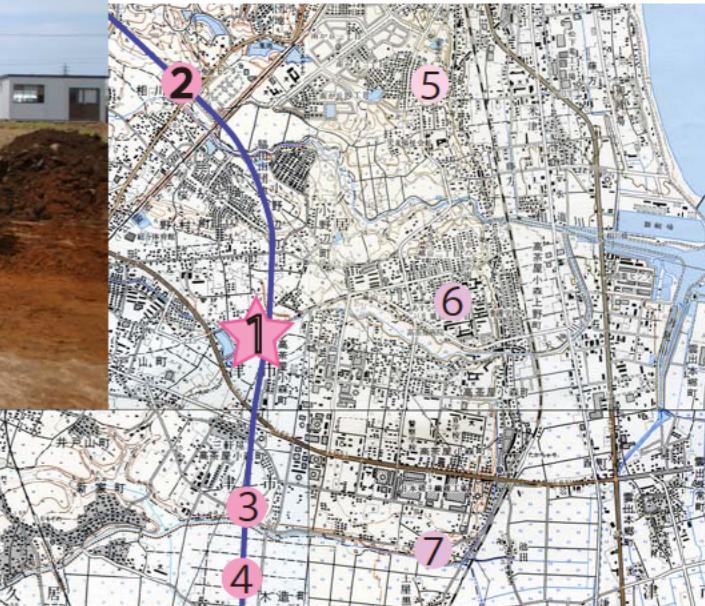
ほんぐう 本宮遺跡発掘調査 現地説明会資料

調査面積 : 2,850m²

調査担当 : 三重県埋蔵文化財センター

調査期間 : 平成23年4月19日～平成23年9月30日(予定)

調査委託 : 国土交通省中部地方整備局 三重河川国道事務所



1本宮遺跡 2相川西方遺跡

3向山遺跡 4木造赤坂遺跡

5池の谷古墳

6高茶屋大垣内遺跡

7四ツ野B遺跡

遺跡位置図 1:50,000

はじめに

一般国道23号中勢道路の建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は昭和63年度からはじまり、近年は、主に旧久居市北部の遺跡の調査を進めています。本年度は本宮遺跡(津市久居野村町)
の第2次調査や相川西方遺跡(津市久居相川町)の第4次調査などを行っています。

ここでは、本宮遺跡の第2次調査について、これまでの調査の成果を紹介します。

竪穴住居が見つかりました！

本宮遺跡は高茶屋や城山のある台地上の遺跡です。同じ台地上の東方には、古墳時代前期から古代まで断続的に集落が営まれた高茶屋大垣内遺跡や、弥生時代後期から古墳時代中期の竪穴住居が87棟も見つかった四ツ野B遺跡があります。

本宮遺跡では、昭和36年の三重県遺跡分布調査の時には、弥生土器と石鏃(石製のやり)が採集されていますが、以前から周辺の開墾畑には須恵器が散布していたそうです。

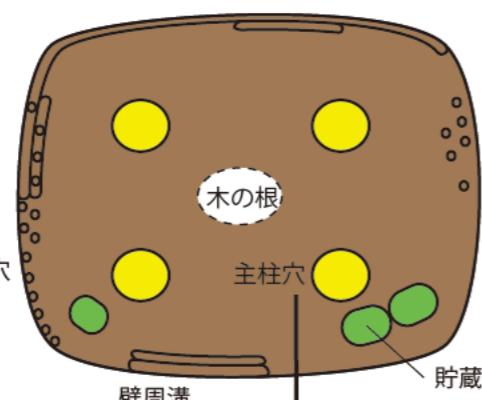
昭和48年には国道165号線改良工事に伴って試掘調査が行われましたが、弥生時代から古墳時代の土器の破片が少量出土しただけでした。

今回は、本宮遺跡で行われた初めての本格的な発掘調査になります。調査地は日当たりのよい南向きの緩やかな斜面なので、住むには良い場所です。調査の結果、古墳時代前期(今から約1,600年前)の竪穴住居が1棟見つかり、埋土の中から当時の人たちが使っていた土器が出土しました。

ほかに、小規模な掘立柱建物や土坑(大きな穴)も見つかりました。



〈竪穴住居の平面略図〉



壁際に杭が何本も打ち込まれていました。

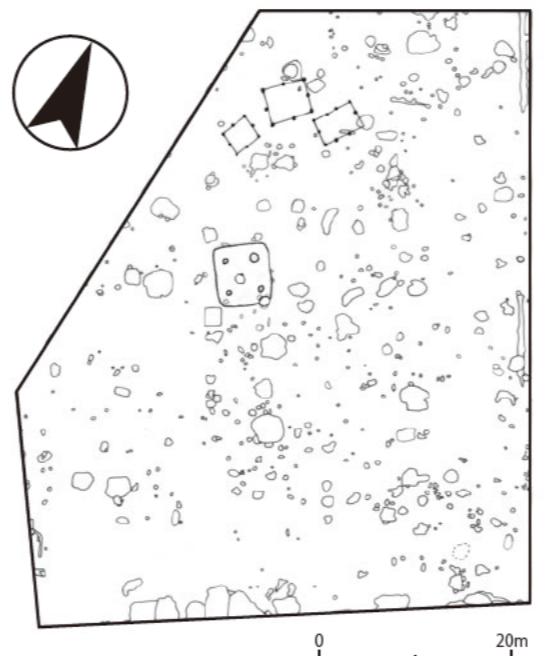


部分的に壁周溝が2本見つかりました。建て替えていたようです。

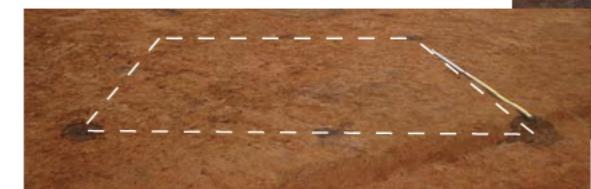


屋根を支える柱を据えた穴です。深さは1m近くあります。

〈調査区略図〉



掘立柱建物



小さな柱穴が四角形に並んでいます。

調査風景

土坑(大きな穴)



たくさんの穴が見つかりました。なかでも、調査区の南壁際の穴からは竪穴住居と同じ時期の土師器が出土しました。

！土器出土！



小型丸底壺



小型丸底壺



高杯の脚部



壺

土器が顔を出したら、割らないように傷をつけないように丁寧に掘ります。